

健康と信頼をお届けする



第160期 事業報告書

株主のみなさまへ

平成15年4月1日から平成16年3月31日まで



株式会社 日清製粉グループ本社

メッセージ

C O N T E N T S

メッセージ	1
会長・社長インタビュー	3
特集：株主の皆様への 利益還元について	7
特集：食品安全への取組み	8
トピックス	9
日清製粉グループの概要	11
営業の概況	13
新製品のご紹介	16
連結財務ハイライト	17
連結業績見通し	17
連結決算の状況	19
単独決算の状況	20
株式の状況	21
会社概要、株主メモ	22



代表取締役
取締役会長 正田 修

代表取締役
取締役社長 長谷川 浩嗣

株主の皆様には、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。

当社第160期の事業の概況をご報告するにあたり、一言ご挨拶申し上げます。

当期における我が国経済は、一部の個人消費や設備投資にやや明るい兆しが見え始めてまいりましたが、デフレの継続や不透明な円相場など企業を取り巻く環境は引き続き厳しいものでありました。

当社関連の業界におきましても、長期にわたる需要低迷やグローバル化の進展により販売競争はますます激化しております。このような環境下、経営のコア事業と成長事業へ重点的に資源を配分するとともに積極的な拡販努力を重ね、また、当社グループは引き続きすべての領域において徹底したコスト削減を推進しました結果、連結業績につきましては、売上高は4,341億25百万円(前年比7.9%増)、経常利益は228億93百万円(前年比14.8%増)とそれぞれ過去最高を更新し、当期純利益も、115億75百万円(前年比9.5%増)と増益となりました。

なお、当期におきましては、株主の皆様への一層の利益還元といたしまして前期の1株当たり1円の増配に引き続き1株当たり2円の増配を行って、11円の年間配当を実施させていただきました。

今後の見通しにつきましては、日本経済は国内需要が底堅さを増しておりますものの、アメリカ経済の減速懸念等により、企業を取り巻く環境には依然不透明感が漂っております。その中で当社は、中期経営計画

の最終年度を迎え、グループ各社においてマーケットニーズを的確にとらえた新製品を積極的に開発・販売してまいりますとともに、本年3月には中食事業の戦略会社イニシオフーズ(株)を設立し、将来の食品事業の中核を担う新規食卓提案型ビジネスの構築を目指してまいります。また、グループの国際化戦略の推進、環境保全の取組み強化、製品の安心・安全を目指した品質保証体制のより一層の充実に加え、コンプライアンスの徹底と更なる周知に努めてまいります。

以上の課題への取組みを着実に実施し、持株会社である当社を中核にコーポレートスローガン「健康と信頼をお届けする」を事業の基軸として各事業会社が市場にスピーディかつ柔軟に対応することを通じて一層の業容拡大に努め、グループ全体として企業価値の極大化を図り、顧客・株主の皆様を始め社会から評価され続ける企業グループを目指してまいります。

何卒株主各位の変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年6月

代表取締役
取締役会長

正 田 修

代表取締役
取締役社長

長谷川 浩嗣

会長・社長インタビュー

今回は、当期（平成16年3月期）の事業概況に加え、本年6月からスタートした新体制と今後の方向性などについて、正田会長、長谷川社長にインタビューしました。

新たな経営体制について

Q

今般正田社長が会長になられ、長谷川新社長が就任されましたが、新たな体制に向けての抱負をお聞かせください。

A

正田会長：18年間、日清製粉（株）、（株）日清製粉グループ本社の社長を務めてまいりましたが、6月25日をもって（株）日清製粉グループ本社社長を長谷川浩嗣氏に引き継ぐこととしました。社長在任中、株主の皆様より並々ならぬご支援をいただきましたことを、この機会に心よりお礼申し上げます。

社長就任時より「企業は変化することによってのみ生

存し、発展していける」すなわち「時代への適合」ということを考え方の根底に置き諸施策を推し進めてまいりました。生産部門、管理部門の構造改革、海外事業展開、分社経営への転換、事業ポートフォリオの強化など、いずれもこの考え方に基づく施策でありました。おかげさまで、分社経営もほぼ3年が経過して定着してきましたし、当期には、日清飼料（株）の丸紅飼料（株）との経営統合、オリエンタル酵母工業（株）の連結子会社化と事業ポートフォリオの強化も推進することができました。

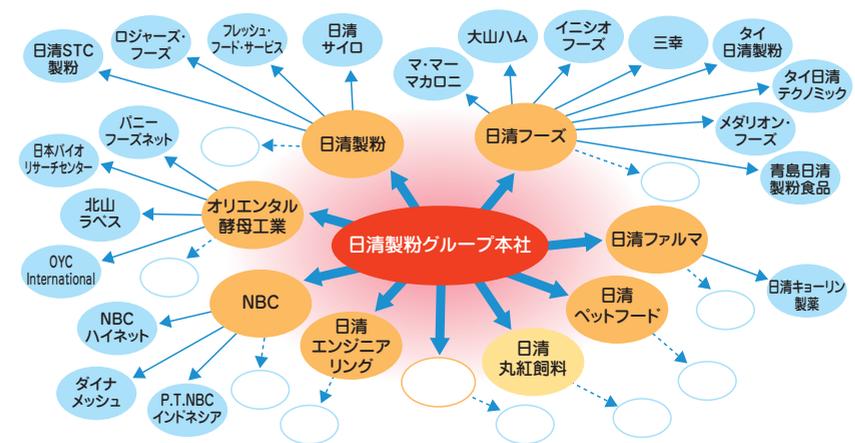
今年度は中期経営計画の最終年度であり、明年以降の新経営計画を策定する年でもあります。新経営計画

を新たな視点と感覚をもって作成する上から、長谷川新社長への交代を決定いたしました。私は代表取締役会長として「当社並びにグループの姿」に関する事柄にたずさわっていく予定です。

長谷川社長：6月25日をもって、代表取締役社長に就任いたしました。重責にまさに身の引き締まる思いです。

私は分社施策後3年間日清フーズ（株）の社長を務めさせていただきましたが、まだまだ発展途上にあ

当社並びにグループの姿



り、一層の努力が必要と自認しておりましたので、今回の指名には大変驚きました。しかし、何事にも前向きに取り組むことが私の信条でありますので、思い切って受けさせていただくことにいたしました。

これから、正田会長が社長在任時に進めてこられた路線を踏襲するとともに、「時間」をキーワードに更にスピードを上げ、よりイノベティブな集団を作り上げて、次のステップの重点課題である「成長」を実現していきたいと思っています。具体的には、現在進行中の中期経営計画の最終年度である平成16年度施策の確実な実行と、来年以降の新しい経営計画の策定に取り組んでまいります。



代表取締役
取締役会長 正田 修

代表取締役
取締役社長 長谷川 浩嗣

座右の銘である「清く正しく逞しく」をモットーに、常に全力投球でグループの発展に尽くしていく所存ですので、株主の皆様方のより一層のご支援をよろしく願っています。

当期(平成16年3月期)の取組み、業績について



当期の業績について会長にお伺いいたします。当期の業績は順調に推移しましたが、業績の概要と積極的に取り組まれた施策についてお話しください。



正田会長:当社グループの当期の活動において特記すべきこととしましては、先ほども触れましたが、オリエンタル酵母工業(株)の連結子会社化、日清飼料(株)の丸紅飼料(株)との経営統合の2つの事業ポートフォリオ見直し施策の実施が挙げられます。特にオリエンタル酵母工業(株)の連結子会社化は、同社との

連携強化を通じてグループの今後の発展に大きく貢献するものと期待しております。この事業ポートフォリオ効果に加えて、個別事業においては、主力の製粉事業が安定した収益を実現したのに加えて、新製品を中心として拡販を進めた日清ファルマ(株)、日清ペットフード(株)が好調に推移し、グループ全体としても増収増益を達成いたしました。なお、食の安心・安全の実現のために新たな設備投資などのコスト負担、製粉事業における国際競争力の更なる強化を目指して稼働した鶴見工場最新鋭大型ミルの減価償却負担などコストアップ要因を吸収した上での増益であることを評価しています。

会長・社長インタビュー

中期経営計画達成に向けての今後の戦略・方向性について

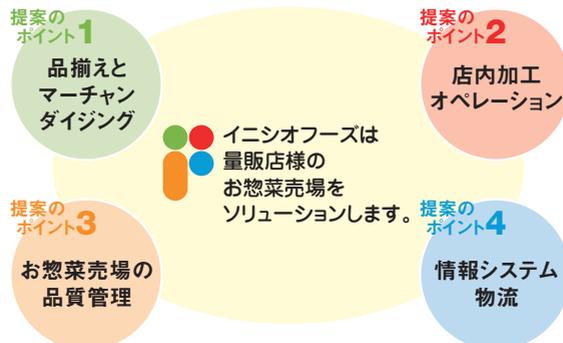
Q 国内外で麦政策の改革に向けた様々な動きが見られておりますが、製粉事業に与える影響とそれに対処するための取組みをお話してください。

A **正田会長**:グローバルな動きとしましては、WTO（世界貿易機関）農業交渉や各国とのFTA（自由貿易協定）締結の動向に注視していく必要があります。国内においても、政府から製粉会社への小麦の売渡価格が国際価格に比べて割高となっている内外価格差縮小の課題を始め、麦政策の基本的なあり方についての検討が開始されております。製粉事業を始めとして当社グループでは、既に20年近く前よりNI（日清イノベーション）活動を実施し、スピードを上げて構造改善や国際化に取り組み、グローバル競争に耐えうる強固な企業体質の構築を進めてきております。今後も更なる競争力の強化を図り、どのような制度変化が起きても、コスト面・品質面・お客様対応などあらゆる分野での競争優位を發揮していけると考えております。

Q 社長が日清フーズ(株)の社長在任中から中心となって取り組まれてきた中食事業に新しい会社、イニシオフーズ(株)を設立されましたが、その戦略をお聞かせください。

A **長谷川社長**:中食市場は食品業界の中でも希少な成長分野であり、当社グループとしても積極的に経営資源を投入していきたいと考えております。イニシオフーズ(株)が主にターゲットとしています量販店様は、惣菜売りの品揃え、マーチャンダイジング、店内加工のオペレーションについて悩みを抱えておられ、同社は和・洋・中華などの幅広い出来立て惣菜の供給と合わせてソリューション提供を行っていき、従来になか

イニシオフーズ(株)のソリューション提供



った新しいビジネスモデルを確立し、積極的に事業展開を図っていきます。また併せて直営惣菜店舗の運営も行い、そこで培われたノウハウを蓄積することで、ソリューションの幅を広げていけると考えております。今後、短期間でかなりの事業規模の確立を期待している当社グループにおける有望事業の1つであります。

Q 中期経営計画の達成に向けて各事業の取り組みと課題をお聞かせください。

A **長谷川社長**：製粉事業については、会長が述べましたように、制度変更への対応をきっちり行っていくと同時に、国内におけるシェアアップと海外ビジネスの拡大により成長を実現していきます。カナダの子会社ロジャーズ・フーズ社では新しい製粉工場が今秋稼働予定で、これにより北米における製粉能力は倍増されます。食品事業はグループの成長を牽引していく役割を担っており、新製品開発・投入を積極的に進めていきます。また、先に述べましたイニシオフーズ(株)と(株)三幸による惣菜・中食ビジネスの拡大を図り、常温・冷凍・チルドの全温度帯ビジネスの展開による食卓提案型企业への業容変革を一層推進していきます。製粉・食品事業に加えて、今後市場成長の期待できる日清ファルマ(株)の健康食品事業、オリエンタル酵母工業(株)のバイオ事業に、グループの経営資源を投入シコ

ア事業として育て上げていきます。それ以外の各事業においても、新製品・新素材の市場投入により更なる業容の拡大が期待されております。

Q 次期(平成17年3月期)の業績の見通しと中期経営計画の達成に向けての展望をお聞かせください。

A **長谷川社長**：3カ年の中期経営計画の2年目が終了し、計画を上回る収益を上げることができました。その最終年度となる次期の業績につきましては、経営統合に伴い配合飼料事業が持分法適用会社へ移行する影響により上期売上高が減少するものの、前述したような各事業において次世代新製品・新ビジネスモデルの創出の実現を目指した施策を実行することにより、中期経営計画の収益目標を達成していきたいと考えております。

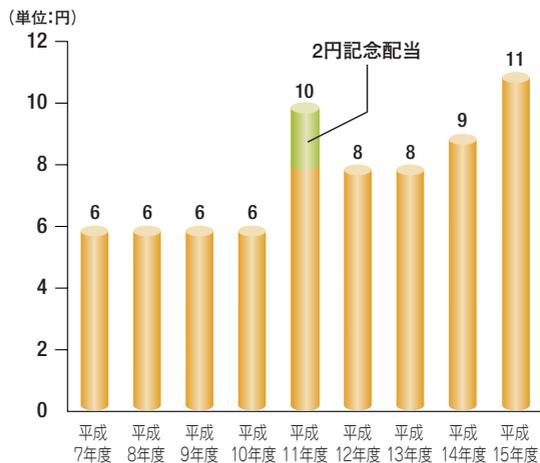
また、この計画を着実に達成するとともに、平成17年4月よりスタートする新たな経営計画を新しい視点から策定いたします。「企業は変化することによってのみ生存し、発展していける」との認識に立って、現状の事業ポートフォリオに安住せず、既に着手した領域を含めた経営資源の最適配分を実施し、新規戦略投資やグループ内外での連合を推進していくことによって、グループ全体のより一層の成長を図っていきたいと考えております。

株主の皆様への利益還元について

当社は、安定配当を基本としつつ、現在及び将来の収益状況と財務状況を勘案して利益配分を行っていくことを基本方針としております。当期におきましては、株主の皆様への一層の利益還元としまして1株当たり2円の増配を実施させていただきますとともに、2百万株の自己株式を取得いたしました。また、前期より株主優待制度を設けて、当社グループの成長分野を知っていただくため、ご希望される株主の皆様には栄養補助食品をお届けしております。

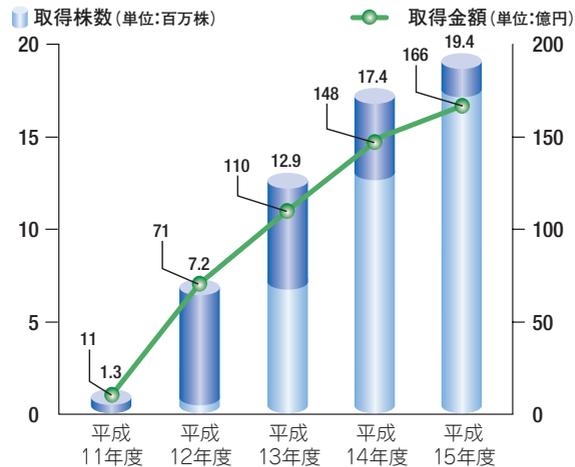
1株当たり配当金実績

—平成10年度から5年間で5円増配を達成—



自己株式取得実績

—着実に機動的に実施—



株主優待制度

平成16年3月31日現在で1,000株以上ご所有の株主の皆様を対象に、日頃の感謝の意を込め当社グループの製品を贈呈させていただきます。
今回は、健康食品事業を展開する日清ファルマ(株)のコーキューリブロン若しくはパワーリブロンの中からお選びいただいた一品を贈呈させていただきますので、是非ご利用くださいますようお願い申し上げます。詳細は7月初旬にお送りいたします「株主優待のご案内」をご覧ください。



コーキューリブロン



パワーリブロン

食品安全への取組み—日清製粉グループの製品の安全と品質保証

日清製粉グループの「食品安全」・「品質保証」の考え方として「消費者の視点から品質を保証する」ということを基本姿勢に、原料から製品までの食品の安全性の確認、品質管理レベルの向上のためのISO9001・HACCP・AIB食品安全統合基準の導入、工場での製品安全・品質管理体制の監査・指導システムの導入等を行ってまいりました。そして平成15年より、各事業会社、製造工場に品質保証責任者を任命し全社的な品質保証体制を構築するとともに、日清製粉グループの「食品安全」・「品質保証」に対する考え方・取組みを当社グループで働くすべての人々が理解し実践していくことにより、今後も日清製粉グループとして、お客様に「健康と信頼をお届けする」ことに努めてまいります。

QEセンター(Quality Exam. Center)



QEセンター

高度の分析能力を有し、原料から製品までの安全性確認や製造工場の環境調査を行い、事業会社を超えた立場から原料の使用、製品の製造・販売の許認可を行う機能を有します。平成15年12月に国内食品メーカーとしては初めて農薬分析に関して国際規格ISO17025の認証を取得しました。

品質保証に関する研修



研修風景

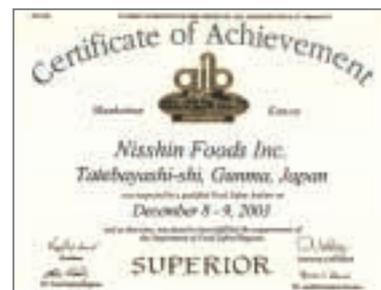
平成15年より、日清製粉グループで働く全従業員を対象に当社グループの「食品安全」・「品質保証」に対する理解を深め、実践していくための教育指導を全研究開発部門・全工場・全営業部を対象に進めています。

ISO及びAIB(American Institute of Baking)食品安全審査登録

平成8年より国際的な品質保証マネジメント規格ISO9001の認証取得を進めてまいりました。また、平成15年12月、日清製粉(株)知多工場、平成16年1月、日清フーズ(株)館林工場で日本パン技術研究所の行うAIB食品安全統合基準による監査で最上級の「スーパーリア」を取得しました。



日清フーズ(株)館林工場



AIB認証

トピックス

日清丸紅飼料株式会社がスタート

平成15年10月1日、丸紅飼料(株)と日清飼料(株)が経営統合し日清丸紅飼料(株)がスタートしました。新会社は畜産・水産飼料とも商系トップグループとなり、「スピード」「顧客の重視」「現場主義」の徹底により、配合飼料業界におけるリーディングカンパニーとして更なる発展を目指していきます。



新会社披露パーティーの様相

FOODEX JAPAN 2004出展

「健康へのこだわり」と
「安心・安全への取組み」を訴求

日清製粉グループは「健康と信頼をお届けする」というコーポレートスローガンに基づき、事業活動を推進しております。平成16年3月に開催されましたFOODEX JAPAN 2004では、「健康」をテーマとした保存料・合成着色料不使用の和惣菜や地中海式ヘルシーパスタの各種メニュー及び水溶性コエンザイムQ10を使用したサプリメントの新製品を紹介するとともに、環境保全や品質管理の徹底によるお客様との「信頼」関係の強化を訴求しました。



FOODEX JAPAN 2004出展風景

スポーツ、芸術事業に協賛

日清製粉グループは、スポーツの持つ、明るく元気で夢を与えるイメージを当社のコーポレートスローガンに重ね、各種スポーツイベントへ協賛しております。そして主力商品であるパスタを健康・スポーツ食と位置付け、パスタの普及活動(パスタカーポロディング)の推進にも努めております。さらには、日本フィルハーモニーコンサートやテーマパークであるユニバーサルスタジオ及びJRAへの協賛などを通じ、各ステークホルダーとのコミュニケーションを図っております。



ラグビー対抗戦への協賛



コエンザイムQ10の技術開発に関し 「大河内記念生産賞」受賞

平成16年3月、日清ファルマ(株)は「2003年度大河内記念生産賞」を受賞しました。これは当社が世界に先駆けてコエンザイムQ10の製法を確立し、以来30年パイオニアとして技術開発を積み重ね、その有用性を拡大するとともに、今後も健康増進に多大な貢献を果たすものと期待されているものです。



受賞式

中国を代表する国際食品見本市 「シアルチャイナ」に出展

平成16年3月、日清製粉グループは初めて中国上海で開催されました「第5回シアルチャイナ」に出展し、今後中国で需要の拡大が見込まれる揚げ物やベーカリー用プレミックス類の製品を紹介しました。平成14年4月、日本のプレミックス業界では初めて現地に設立しました青島日清製粉食品有限公司は、中国の消費者のライフスタイルの変化に伴い、外食や惣菜などの加工食品に対する需要が急増する中で、更なる事業の拡大を図ってまいります。



第5回シアルチャイナ出展(青島日清製粉食品有限公司)

日清製粉グループの概要

当社グループは持株会社である当社と「製粉」「食品」「その他」の各事業によって構成されており、当社のほか子会社52社、関連会社16社の体制となっています。その内当社と主要な会社の事業系統図は次のとおりであります。

従業員数 (平成16年3月31日現在)	
■ 製粉事業	1,301名
■ 食品事業	2,967名
■ その他事業等	663名
■ グループ本社	254名
合計	5,185名

当社とグループ各社との事業系統図 (平成16年3月31日現在)

製粉事業

- ◆ 日清製粉株式会社
- ◆ フレッシュ・フード・サービス株式会社
- ◆ ヤマジョウ商事株式会社
- ◆ ロジャーズ・フーズ株式会社(カナダ)
- ◆ 日清STC製粉株式会社(タイ)
- ◆ NSTCトレーディング株式会社(タイ)
- ◆ 石川株式会社
- ◆ フォーリーブズ株式会社(シンガポール)



- ◆ 連結子会社
- ◆ 持分法適用会社

- ◆ 日清アイエスエル株式会社
- ◆ 日清不動産株式会社

食品事業

◆ 日清フーズ株式会社

- ◆ マ・マーマカロニ株式会社
- ◆ 株式会社三幸
- ◆ イニシオフーズ株式会社

- ◆ 大山ハム株式会社
- ◆ メダリオン・フーズ・インク(アメリカ)
- ◆ フード・マスターズ株式会社(アメリカ)

- ◆ タイ日清製粉株式会社(タイ)
- ◆ タイ日清テクノミック株式会社(タイ)
- ◆ 青島日清製粉食品有限公司(中国)

◆ オリエンタル酵母工業株式会社

- ◆ 中越パニー株式会社
- ◆ 株式会社サンオリコ
- ◆ 株式会社日本バイオリサーチセンター

- ◆ 北山ラベス株式会社
- ◆ 株式会社オリエンタルバイオサービス
- ◆ 株式会社オリエンタルバイオサービス関東

- ◆ 株式会社ケービーティーオリエンタル
- ◆ OYC International, Inc. (アメリカ)
- ◆ オリエンタルサービス株式会社

◆ 日清ファルマ株式会社

- ◆ 日清キョーリン製薬株式会社

その他事業

◆ 日清ペットフード株式会社

◆ 日清エンジニアリング株式会社

◆ NBC株式会社

- ◆ 株式会社NBC浜松
- ◆ シーエヌケイ株式会社

- ◆ P.T.NBCインドネシア(インドネシア)
- ◆ ダイナメッシュ・インク(アメリカ)

- ◆ THAINAK INDUSTRIES CO., LTD. (タイ)

◆ 日清丸紅飼料株式会社

- ◆ 日清サイロ株式会社
- ◆ 信和開発株式会社

- ◆ 日本ロジテム株式会社
- ◆ 阪神サイロ株式会社

- ◆ 千葉共同サイロ株式会社

営業の概況

製粉事業

〈当期の概況〉

小麦粉の出荷につきましては、冷夏の影響もあり食パンや菓子類の需要が回復するなど市場環境が総じて堅調に推移する中において、当社はリレーションシップ・マーケティングを一層推進し拡販に努めた結果、出荷は前年を上回りました。生産面では鶴見工場の最新鋭大型ミルを中心に臨海工場の稼働が順調に推移しており、多様化するお客様のニーズにきめ細かくお応えするとともに、ローコストオペレーションの推進に大きく寄与しております。また、昨年6月には品質保証への取組みを更に強化し、お客様の視点からの品質保証体制の確立を図るとともに、営業部署と緊密に連携し卸売業界を含めた「クリーン&セーフティーキャンペーン」を積極的に展開して、小麦粉

〈次期の見通し〉

国内の小麦粉消費は少子高齢化により今後大きな需要の伸びが期待できない中、小麦粉調製品などの輸入増により、企業間の販売競争は一段と厳しさを増すものと懸念されます。当社は市場の変化を的確にとらえたお客様への新製品提案、販売促進提案などのソリューション型営業を積極的に展開するとともに、双方向のコミュニケーションシステム「創・食Club」を活用し、小麦粉の出荷伸長を図ってまいります。

また、生産面では更なる効率化を進めるとともに、物流・購買・販売などすべての面でのコスト削減に取り組み、収益の確保を図ってまいります。さらに、製品の安心・安全を目指して「クリーン&セーフティーキャンペーン」を継続し、従来にも増して小麦粉の流通・保管面にわたる品質管理体制を強化してまいります。

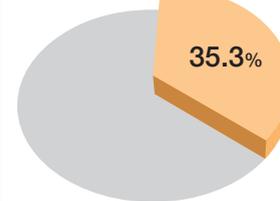
の製造面のみならず流通・保管面における安心・安全対策の強化を推進してまいりました。

本年2月には4年ぶりに原料小麦の政府売渡価格が引き下げられたことに伴い、3月から小麦粉価格の値下げを行いました。

副製品であるふすまにつきましては、国内における飼料向け需要が旺盛であったことや競合品の輸入量が減少したこともあり、販売数量・価格とも堅調に推移しました。

製粉事業売上高

153,081百万円



海外戦略の推進につきましては、今秋にカナダの子会社ロジャーズ・フーズ社の新鋭製粉工場がバンクーバー近郊に完成し、北米における事業の拡大を進めてまいります。



アメリカンベーキングセミナー

食品事業

〈当期の概況〉

日清フーズ(株)につきましては、お客様の低価格志向と販売競争激化により厳しい状況下にありましたが、マーケットニーズに対応した新製品の開発と積極的な販売活動により、天ぷら粉、パスタ、パスタソース、冷凍食品などの出荷はいずれも前年を上回りました。一方、冷夏の影響により乾麺の出荷は前年を下回りました。本年2月には、常温食品におきまして、電子レンジで簡単にアルデンテの本格的な食感を楽しめる、無菌化技術を応用した次世代パスタ「マ・マー 2分で作れるアルデンティーノ」シリーズを含め新製品17品目・リニューアル8品目を発売いたしました。冷凍食品におきましては、「簡便本格・健康・和風」をキーワードとして新製品11品目・リニューアル2品目を発売いたしました。また、本年1月にはパスタ製造子会社でありますマ・マーマカロニ(株)神戸工場に大型パスタラインを新設し、コスト競争力と品質の安定性の強化を図っております。オリエンタル酵母工業(株)につきましては、食品部門は冷夏

〈次期の見通し〉

日清フーズ(株)につきましては、デフレの継続や円高基調により食品業界の販売競争は引き続き激しさを増すものと思われませんが、安心・安全・健康に対するお客様のニーズにお応えした新製品の開発・投入、さらには積極的な販売促進活動を展開するとともに、品質管理・保証体制のより一層の強化・充実を図ってまいります。また、食品業界の中でも希少な成長分野となっております中食市場における業容の拡大を目指して、本年3月に設立しましたイニシオフーズ(株)は、出来立て惣菜の供給や、オペレーションシステムの提案、直営店舗の出店など従来になかった新しいビジネスモデルを確立し、積極的に事業展開してまいります。

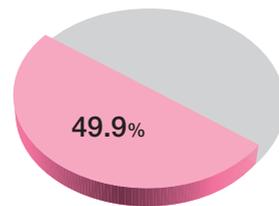
オリエンタル酵母工業(株)につきましては、食品部門はお客様のニーズに対応した新製品提案やターゲットを明確にした営業活動を推進し、拡販を図ってまいります。パイオ部門は

の影響もあり製パンメーカーの需要が堅調に推移したことに加え、積極的な営業施策の推進によりイースト、フラワーペーストなど主要製品の出荷が伸びいたしました。パイオ部門はユーザーニーズを的確にとらえて拡販を図り、主力の実験動物、実験動物用飼料、パイオ研究支援各種受託事業などが順調に推移いたしました。

日清ファルマ(株)につきましては、健康食品用途として国内販売に注力した主要製品のコエンザイムQ10の出荷が、認知度の高まりとともに素材、末端製品とも順調に推移しました。素材販売では水溶性タイプの拡販に努め用途拡大を図るとともに、末端製品では通信販売・店舗販売向けに飲料タイプや顆粒タイプの新製品を投入し、品揃えを強化いたしました。

食品事業売上高

216,825百万円



更なる飛躍を目指して戦略的な事業投資を積極的に進め、ポストゲノムに対応するパイオ・ライフサイエンス事業の一層の拡大を目指すと同時に、グループ各社との緊密な連携によりシナジーを発揮してまいります。

日清ファルマ(株)につきましては、引き続きコエンザイムQ10の国内健康食品市場における需要の拡大が見込まれる中、積極的な製品開発・拡販を図ってまいります。特にドラッグストア、薬局等の販売チャネルの確立を目指し、それらをターゲットとした新製品の投入、積極的な販促活動を推進してまいります。



ファベックス2004出展
(ファベックスは惣菜デリカ・弁当・外食専門展)

営業の概況

その他事業

〈当期の概況〉

日清ペットフード(株)につきましては、ターゲットを明確にした営業活動を推進し、猫用ドライ製品を中心に出荷が大きく伸びいたしました。本年3月には「嗜好性」「健康」をテーマに犬・猫用新製品19品目を発売し、商品ラインナップを強化しました。

日清エンジニアリング(株)につきましては、企業の設備投資は回復基調にあるものの同社を取り巻く関連業界における受注競争は依然厳しい状況にあり、売上げは前年を下回りました。

NBC(株)につきましては、主力のスクリーン印刷用メッシュクロスにおいて関連業界における生産の海外移転など厳しい環境にありましたが、高精細メッシュクロスなど

〈次期の見通し〉

日清ペットフード(株)につきましては、マーケットに密着した自社による研究開発から製造、販売までの強みを活かし、おいしさと健康に配慮した犬・猫用の新製品を積極的に投入するとともに、効率的営業活動を推進し、売上げの増加を図ってまいります。

日清エンジニアリング(株)につきましては、前年を上回るプラントエンジニアリングの受注確保に努めるとともに、液晶スパーサー散布装置など粉体機器販売、粉体加工分野においても積極的な拡販を図ってまいります。本年9月には粉体機器、粉体加工の開発等を行う充実した設備を有する事業所が完成し、きめ細かな対応を図ることで、お客様のご期待にお応えしてまいります。

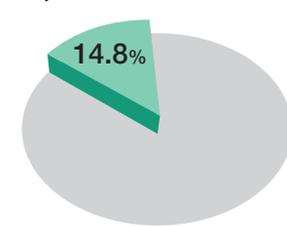
NBC(株)につきましても、高付加価値製品の市場への投入を進め、主力製品でありますスクリーン印刷用メッシュクロスを中心にメッシュテクノロジーを活用した各種製品の拡販を図ってまいります。

付加価値製品の拡販、海外市場への積極的な展開を図り、売上げは前年を上回りました。

日清飼料(株)につきましては、昨年10月1日に丸紅飼料(株)との経営統合により日清丸紅飼料(株)となり、持分法適用関連会社となりました。配合飼料の商系トップ企業として、コスト面・販売面などあらゆる分野での競争優位の確立と統合効果の実現を目指した結果、出荷は順調に推移いたしました。

その他事業売上高

64,218百万円



インターフェックスジャパン2003に出展
(日清エンジニアリング(株)は、医薬品・化粧品等に使用される機器を展示)



※インターフェックスジャパンは医薬品・化粧品等の製造技術・研究開発の国際展です。

新製品のご紹介

●マ・マー お弁当用スパゲティ 7種の野菜のミートソース

(日清フーズ(株):冷凍お弁当用スパゲティ)

7種類の野菜(なす、玉ねぎ、にんじん、トマト、セロリ、にんにく、じゃがいも)がたっぷり入った、栄養バランスのとれた冷凍お弁当用ミートソーススパゲティです。よく炒めた香味野菜の甘みと、コクのあるお肉の旨みが効いたジューシーなミートソースをスパゲティにからめ、冷めても贅沢な美味しさが保持されますので、お弁当に最適です。



(平成16年2月新発売)

●マ・マー 2分で作れるアルデンティーノ スパゲティ ミートソース

(日清フーズ(株):電子レンジ対応パスタ)

電子レンジで2分間温めるだけで、本格的なアルデンテのパスタが楽しめます。お肉と玉ねぎを丁寧に仕込み、じっくりと旨みを引き出した、コクの豊かなミートソース付きです。この「アルデンティーノ」シリーズは、スパゲティで4種類、ショートパスタ(ペンネ)で2種類の、合計6種類のラインナップをしております。



(平成16年2月新発売)

●青の洞窟 ナポリ風ピッツァセット

(日清フーズ(株):ピッツァセット)

ナポリ風の本格的ピッツァが家庭でも手軽に楽しめるよう、ナポリ風ピッツァの生地ミックスと専用ピッツァソース及び専用ドライイーストをセットにしました。生地を伸ばしやすくするとともに、家庭用のガスオーブンや電気オーブンでも、ふっくらとした額縁と、もちもちとした食感を実現できるようにしております。



(平成16年2月新発売)

●おんなのQ10、おとこのQ10

(日清ファルマ(株):コエンザイムQ10)

「おんなのQ10」「おとこのQ10」は、今話題のコエンザイムQ10をベースに、「おんなのQ10」にはビタミンC・B群・Eを、「おとこのQ10」にはビタミンB1・アミノ酸などを配合しました。吸収性の良い水溶性コエンザイムQ10を使用したおいしくて飲みやすい顆粒状の商品です。



(平成16年4月新発売)

●シェイブナビ

(日清ファルマ(株):コエンザイムQ10)

「シェイブナビ」は、美容とスタイルアップを目指す女性のためのサプリメントです。一日分でコエンザイムQ10・L-カルニチン・アミノ酸など、話題の成分が効率よく摂取できます。水溶性のコエンザイムQ10を使用し、そのまま噛んで食べられる、おいしいチュアブルタブレットです。



(平成16年4月新発売)

●ラン・ミールミックス 1.5kg 成犬用・小型犬用・高齢犬用

●ラン・ミールミックス 3.5kg 成犬用(お魚/チーズ)・高齢犬用

(日清ペットフード(株):犬用ドライフード)

ラン・ミールミックス1.5kgサイズは、愛犬の嗜好性を満足させるためにミルクパウダーをまぶすなどの工夫をしました。また、3.5kgサイズはキシリトール入りの大粒を配合し、愛犬がよく噛んで食べるための配慮をしました。バランスの良い総合栄養ドライフードです。

(平成16年3月新発売)



連結財務ハイライト

[連結財務ハイライト (平成11年3月期～平成16年3月期)]

	平成11年3月 第155期	平成12年3月 第156期	平成13年3月 第157期	平成14年3月 第158期	平成15年3月 第159期	平成16年3月 第160期	対前年	増減率
経営成績								
売上高(百万円)	364,301	402,881	402,937	397,173	402,313	434,125	+ 31,812	+ 7.9%
営業利益(百万円)	13,808	19,014	18,504	15,593	17,706	21,756	+ 4,050	+ 22.9%
経常利益(百万円)	15,923	20,351	19,652	17,467	19,937	22,893	+ 2,955	+ 14.8%
当期純利益(百万円)	7,327	10,822	11,136	9,334	10,575	11,575	+ 999	+ 9.5%
利益率								
売上高営業利益率	3.8%	4.7%	4.6%	3.9%	4.4%	5.0%	+ 0.6%	
売上高経常利益率	4.4%	5.1%	4.9%	4.4%	5.0%	5.3%	+ 0.3%	
売上高当期純利益率	2.0%	2.7%	2.8%	2.4%	2.6%	2.7%	+ 0.1%	
株主資本当期純利益率(ROE)	4.5%	6.0%	6.0%	4.2%	5.0%	5.2%	+ 0.2%	
財務状況								
総資産(百万円)	268,798	291,524	294,474	340,637	316,330	359,820	+ 43,490	+ 13.7%
株主資本(百万円)	165,988	184,558	186,138	215,354	211,197	230,555	+ 19,357	+ 9.2%
株主資本比率	61.8%	63.3%	63.2%	63.2%	66.8%	64.1%	△ 2.7%	
1株当たり指標								
当期純利益(円)	29.13	43.10	45.07	38.40	44.29	49.16	+ 4.87	
株主資本(円)	659.90	738.45	762.84	904.15	904.80	996.59	+ 91.79	
配当金(円)	6	10	8	8	9	11	+ 2	

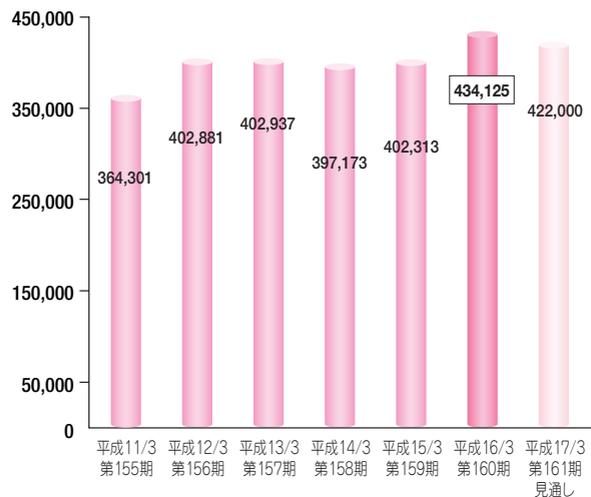
連結業績見通し

[平成17年3月期業績見通し]

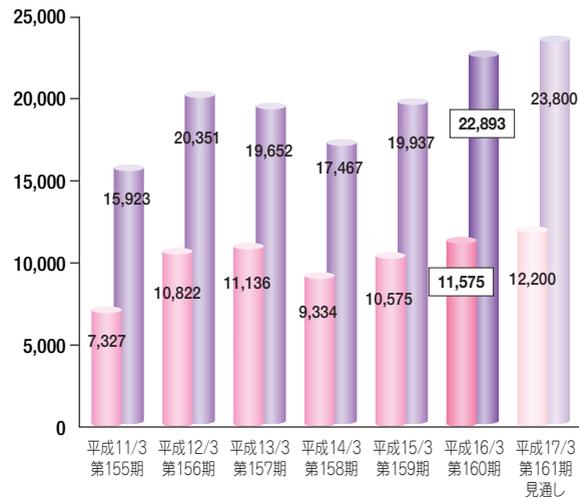
	平成16年3月実績	平成17年3月見通し	前年差	前年比
売上高(百万円)	434,125	422,000	△ 12,125	△ 2.8%
経常利益(百万円)	22,893	23,800	+ 907	+ 4.0%
当期純利益(百万円)	11,575	12,200	+ 625	+ 5.4%

(注) 当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

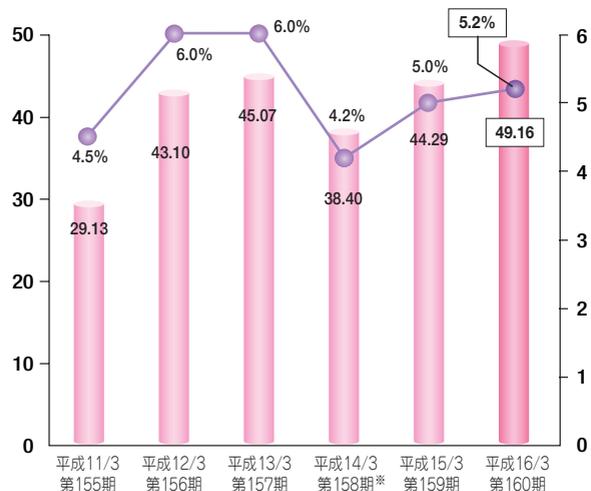
売上高 (百万円)



経常利益 当期純利益 (百万円)

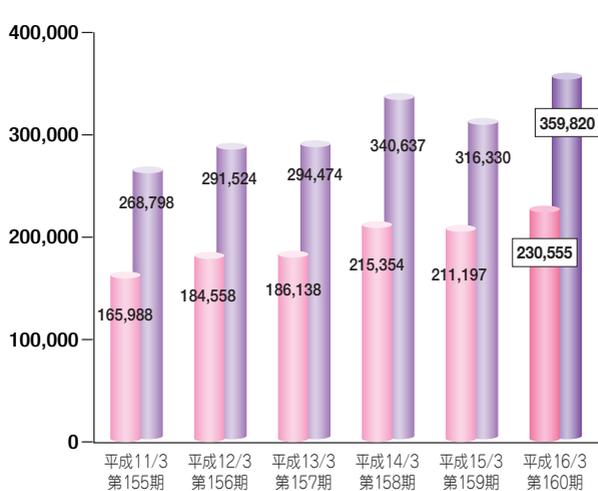


1株当たり当期純利益 (円) 株主資本当期純利益率 (ROE) (%)



※第158期の株主資本当期純利益率(ROE)が大きく減少しているのは、主として時価会計導入に伴い、有価証券が時価評価された影響によるものです。

総資産 株主資本 (百万円)



(注) 当資料に記載されている内容は、種々の前提に基づいたものであり、記載された将来の計画数値、施策の実現を確約したり、保証するものではありません。

連結決算の状況

連結貸借対照表

(平成16年3月31日現在) 単位:百万円

科 目	前連結会計年度 (15年3月31日)	当連結会計年度 (16年3月31日)	比 較 (△は減)
(資産の部)			
流動資産	146,843	158,289	11,445
固定資産	169,486	201,530	32,044
資産合計	316,330	359,820	43,490
(負債の部)			
流動負債	58,680	64,026	5,346
固定負債	33,071	39,873	6,801
負債合計	91,751	103,899	12,148
(少数株主持分)			
少数株主持分	13,380	25,364	11,984
(資本の部)			
資本金	17,117	17,117	-
資本剰余金	9,446	9,446	0
利益剰余金	172,189	179,241	7,051
その他有価証券評価差額金	14,795	27,177	12,381
為替換算調整勘定	△ 687	△ 1,012	△ 324
自己株式	△ 1,663	△ 1,414	248
資本合計	211,197	230,555	19,357
負債、少数株主持分及び資本合計	316,330	359,820	43,490

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結キャッシュ・フロー計算書

(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで) 単位:百万円

科 目	前連結会計年度 (14年4月1日~ 15年3月31日)	当連結会計年度 (15年4月1日~ 16年3月31日)	比 較 (△は減)
営業活動によるキャッシュ・フロー	11,050	20,999	9,948
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 1,312	△ 7,931	△ 6,618
財務活動によるキャッシュ・フロー	△ 10,890	△ 7,549	3,340
現金及び現金同等物に係る換算差額	△ 124	△ 129	△ 4
現金及び現金同等物の増減額	△ 1,277	5,389	6,666
現金及び現金同等物の期首残高	50,066	48,789	△ 1,277
連結除外に伴う現金及び現金同等物の減少額	-	△ 23	△ 23
現金及び現金同等物の期末残高	48,789	54,154	5,365

(注) 1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
2. 資金運用資産を含めた手元資金は、581億76百万円で、前連結会計年度末より61億91百万円増加しております。

連結損益計算書

(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで) 単位:百万円

科 目	前連結会計年度 (14年4月1日~ 15年3月31日)	当連結会計年度 (15年4月1日~ 16年3月31日)	比 較 (△は減)
売上高	402,313	434,125	31,812
売上原価	282,974	302,079	19,105
売上総利益	119,339	132,046	12,707
販売費及び一般管理費	101,632	110,289	8,656
営業利益	17,706	21,756	4,050
営業外収益	3,302	2,442	△ 860
営業外費用	1,071	1,305	234
経常利益	19,937	22,893	2,955
特別利益	4,004	3,366	△ 637
特別損失	4,270	3,048	△ 1,222
税金等調整前当期純利益	19,671	23,211	3,540
法人税、住民税及び事業税	10,100	10,269	168
法人税等調整額	△ 1,836	△ 535	1,300
少数株主利益	831	1,902	1,070
当期純利益	10,575	11,575	999

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

連結剰余金計算書

(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで) 単位:百万円

科 目	前連結会計年度 (14年4月1日~ 15年3月31日)	当連結会計年度 (15年4月1日~ 16年3月31日)	比 較 (△は減)
(資本剰余金の部)			
資本剰余金期首残高	9,446	9,446	-
資本剰余金増加高	-	0	0
資本剰余金期末残高	9,446	9,446	0
(利益剰余金の部)			
利益剰余金期首残高	165,265	172,189	6,924
利益剰余金増加高	11,437	11,582	144
利益剰余金減少高	4,513	4,530	17
利益剰余金期末残高	172,189	179,241	7,051

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

単独決算の状況

貸借対照表

(平成16年3月31日現在)

単位:百万円

科 目	前期 (15年3月31日)	当期 (16年3月31日)	比 較 (△は減)
(資産の部)			
流動資産	40,898	43,959	3,061
固定資産	159,026	178,472	19,445
資産合計	199,925	222,432	22,506
(負債の部)			
流動負債	16,440	19,204	2,764
固定負債	10,628	16,148	5,520
負債合計	27,068	35,352	8,284
(資本の部)			
資本金	17,117	17,117	-
資本剰余金	9,446	9,446	0
利益剰余金	136,046	139,863	3,817
株式等評価差額金	11,862	22,013	10,150
自己株式	△ 1,616	△ 1,362	254
資本合計	172,856	187,079	14,222
負債及び資本合計	199,925	222,432	22,506

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

利益処分

単位:百万円

摘 要	前期 (15年3月)	当期 (16年3月)	比 較 (△は減)
当期末処分利益	21,821	25,548	3,726
特別償却準備金取崩額	77	22	△ 54
固定資産圧縮積立金取崩額	29	29	△ 0
計	21,929	25,600	3,671
これを次のとおり処分します。			
利益配当金	1,168 (1株につき5円)	1,505 (1株につき6.5円)	337
取締役賞与金	40	45	5
固定資産圧縮積立金	197	32	△ 164
固定資産圧縮特別勘定積立金	1	-	△ 1
次期繰越利益	20,522	24,017	3,495

損益計算書

(平成15年4月1日から平成16年3月31日まで)

単位:百万円

科 目	前期 (14年4月1日~ 15年3月31日)	当期 (15年4月1日~ 16年3月31日)	比 較 (△は減)
営業収益	15,030	17,856	2,825
営業費用	11,803	11,503	△ 299
営業利益	3,227	6,352	3,125
営業外収益	1,461	731	△ 729
営業外費用	185	133	△ 52
経常利益	4,503	6,950	2,447
特別利益	3,123	2,551	△ 571
特別損失	1,495	2,132	637
税引前当期純利益	6,131	7,369	1,237
法人税、住民税及び事業税	1,270	19	△ 1,251
法人税等調整額	△ 610	△ 815	△ 204
当期純利益	5,472	8,165	2,693
前期繰越利益	19,815	20,522	706
自己株式消却額	2,517	2,088	△ 429
中間配当額	948	1,051	102
当期末処分利益	21,821	25,548	3,726

(注) 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。

- (注) 1. 記載金額は、百万円未満を切り捨てて表示しております。
 2. 平成15年12月10日に1,051百万円(1株につき4.5円)の中間配当を実施いたしました。
 3. 特別償却準備金、固定資産圧縮積立金及び固定資産圧縮特別勘定積立金は、租税特別措置法等に基づくものであります。

株式の状況

(平成16年3月31日現在)

■会社が発行する株式の総数

461,672,000株(前期末比2,400,000株減)*

■発行済株式の総数

233,214,044株(前期末比2,400,000株減)*

*会社が発行する株式の総数及び発行済株式の総数の減少は、期中の株式の消却によるものです。

■株主数

13,480名(前期末比514名減)

■大株主(上位10名)

株主名	持株数(千株)	議決権比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社 (信託口)	15,281	6.7
日本生命保険相互会社	13,799	6.0
山崎製パン株式会社	12,764	5.5
株式会社みずほコーポレート銀行	11,489	5.0
日本マスタートラスト信託銀行株式会社 (信託口)	10,517	4.6
三菱商事株式会社	6,347	2.7
株式会社みずほ銀行	5,276	2.3
住友商事株式会社	4,577	2.0
株式会社三井住友銀行	4,172	1.8
農林中央金庫	4,081	1.7

■株価の推移

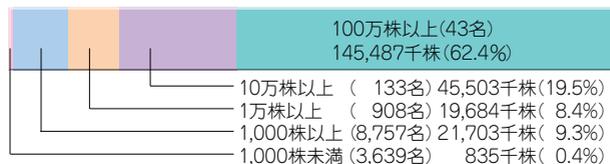


■株式分布状況

所有者別



所有株数別



会社概要

- 商号 株式会社日清製粉グループ本社
■本社 東京都千代田区神田錦町一丁目25番地
■創業 明治33年10月
■資本金 17,117,856,746円(平成16年3月31日現在)
■主要事業

1. 次の事業を営む会社の株式を保有することによる当該会社の事業活動の支配・管理
製粉事業
食品事業
その他事業 ペットフード、エンジニアリング、
メッシュクロス、その他
2. 研究、開発、調査の受託
3. 不動産の賃貸、管理
4. 工業所有権の取得、維持、管理、利用許諾及び譲渡

■役員 (平成16年6月25日現在)

代表取締役 取締役会長	正 田 修
代表取締役 取締役社長	長谷川 浩 嗣
常務取締役	伊 藤 健 夫
常務取締役	村 上 一 平
常務取締役	中 村 隆 司
常務取締役	中 村 勝 勝
取締役	福 嶋 宣
取締役	大 田 雅 巳
取締役	山 田 幸 良
取締役	池 田 和 穂
監査役(常勤)	北 村 正 雄
監査役(常勤)	西 山 好 雄
監査役	畠 山 保 雄
監査役	奥 村 有 敬

■事業所

本社 東京都千代田区神田錦町
研究所 埼玉県入間郡大井町
生産技術研究所 基礎研究所 QEセンター

株主メモ

- 決算期 3月31日
■利益配当金受領株主確定日 3月31日
■中間配当金受領株主確定日 9月30日
■定時株主総会 6月
■公告掲載新聞 東京都において発行する日本経済新聞
(決算公告に代えて貸借対照表及び損益計算書に掲載するホームページアドレス <http://www.nisshin.com/kessan/>)
■1単元の株式の数 1,000株
- 名義書換代理人 東京都港区芝三丁目33番1号
中央三井信託銀行株式会社
同事務取扱所 (郵便番号 168-0063)
東京都杉並区和泉二丁目8番4号
中央三井信託銀行株式会社
証券代行部
電話 東京(03)3323-7111(代表)
- 同取次所 中央三井信託銀行株式会社
全国各支店
日本証券代行株式会社
本店、全国各支店

(お知らせ)

1. 住所変更、単元未満株式買取請求、名義書換請求及び配当金振込指定に必要な各用紙のご請求は、名義書換代理人のフリーダイヤル0120-87-2031又はホームページ(http://www.chuomitsui.co.jp/person/p_06.html)で24時間受付しております。
2. 当社は「単元未満株式の買増制度」を導入しておりますので、単元未満株式(1,000株未満の株式)をご所有の株主様は、その単元未満株式と併せて1単元(1,000株)となる数の株式の買増しを請求することができます。制度の内容及び手続の詳細につきましては名義書換代理人(保管振替制度ご利用の場合はお取引の証券会社)にご照会ください。

